

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が60%以上である。	・学習面および生活面について詳しく把握し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行う。	A	A	A	①本校が好きだと回答した生徒は90%であった。回答した生徒の満足度は高いと思われる。更に向上できるようにしていきたい。	自分の学校が好きだという生徒が90%以上おり、単位制システムも96%が満足していて、多くの生徒が人権講座に参加している。生徒のニーズに合わせて、個別最適な学習環境を整備している結果が生徒の満足度に表れているようである。
		②前期卒業や多様な選択科目など、単位制高校のシステムに満足している生徒が60%以上である。	・生徒の実態やニーズに対応するため教育課程を工夫・改善する。	A	A	A	②単位制のシステムに満足している生徒は96%であった。生徒のニーズの把握と、個々の生徒の実態に応じた教育活動をさらに工夫していきたい。	
		③本校独自の人権教育に満足している生徒が60%以上である。	・人権教育について、生徒に積極的な参加を呼び掛けることともに、実施内容を検討し、充実を図る。	A	A	A	③人権教育や主権者教育に対しては、93%の生徒が満足していると回答している。また以前に比べて多くの生徒が人権講座に参加した。生徒の関心に応えられるよう工夫をしている。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④単位修得した生徒で、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が60%以上である。	・レポート作成等の自学を促すと同時に、「自学自習室」を開放し、いつでも集中して学習に取り組む環境を提供する。 ・「授業アンケート」の回答等を参考にし、スクーリング等面接指導の改善に努める。	B	A	B	④単位修得した生徒で、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒は80%だった。担当者が講座アンケートの回答を振り返り、面接指導やレポートの改善に努めた。	単位を修得した生徒の学習に対する達成感・満足感が80%あるが、さらに生徒個々に応じた活動を期待する。生徒の主体的な学習活動を支援するためにも、教員が授業改善に努めることが重要。地域の資源を生かして、フィールドワークの要素が加わるとよい。通信教育の全ての生徒に学習習慣を身に付けさせるのは、なかなか困難だと思われるが、思考の問題もバランスよく理解している。レポートに思考力・判断力・表現力を伸ばすための工夫があったり、スクーリングに探究的な要素を持たせる工夫があったりするのはいいと思う。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤主体的に学習に取り組み、教科・科目の知識や思考力が身に付いたと感じている生徒が60%以上である。	・レポートに知識や思考問題をバランスよく配置したり、探究型学習を取り入れたスクーリング授業の実現に向けて、常に改善の工夫をする。	A	A	A	⑤単なる穴埋めだけではなく、思考の問題もバランスよく配置している。生徒の91%が教科・科目の知識や思考力が付いたと感じていると回答した。今後はさらに工夫を重ね、主体的・対話的で深い学びが実感できるよう支援していきたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥生徒に関する動向確認をスクーリング日の放課後に毎回行い、生徒の個別指導に役立てるとともに、情報交換会議を学期に2回行い、職員全体で情報を共有する。	・スクーリング時の学年だより等の配付によるさまざまな事前周知を確実に。また、巡視や面接指導で得た生徒の情報をすみやかに共有し、職員全体の共通理解のもとで組織的な指導を行うことで、諸問題を未然に防ぐとともに生じた問題に早急に対応する。	A	A	A	⑥日常的に生徒の様子をきめ細やかに把握するとともに、2回の情報交換会議を開催し、情報共有に努めた。職員全体の共通理解のもとで組織的な指導を行い、諸問題に対応することができた。	スクーリング時に個別指導を行い、諸問題に対応できた。チーム学校として、一人ひとりの生徒の状況を把握して組織的な支援ができることが大切なので、問題を事前に察知して早期に対応するための情報交換を継続してほしアンケート等でトラブルや悩みの情報収集ができていないが、隠れている部分の掘り出しにもうひと工夫が必要。いじめアンケートの実施だけではなくスクーリング時に生徒の様子をしっかりと観察していることは評価できる。ただし、不活動の生徒の状況を把握することはなかなか難しい。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑦いじめの発生防止に努めるとともに、細かな兆候を見逃さず、把握したいいじめ・トラブルへの迅速な対応を必ず行う。	・アンケートなどをとおして生徒の情報収集に努めるとともに、日常的な生徒観察を行い、いじめの早期発見に努める。また小さな訴えも逃さず対策組織で取り上げ、対応する。	A	A	A	⑦アンケート等で生徒のトラブルや悩みに関する情報収集を行うことができた。スクーリング時の様子や電話対応などでも生徒観察を行い、変化を見逃さないよう努めた。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧健康的な自分なりの生活習慣が身につけている生徒が50%以上である。	・個々の生活リズムを確立できるよう、学年通信などで呼びかける。	B	B	B	⑧規則正しい生活を送れていると回答した生徒は55%であった。卒業後を意識して、スクーリングがない日も規則正しい生活を送ることができるよう声かけをしていきたい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑨自己の将来を考えさせるための進路説明会を、年に2回以上行う。	・生徒の進路に対する意識向上のため、外部機関や外部の人材などと連携した進路説明会を企画する。	B	B	B	⑨今年度も2回にわたって進路説明会を実施した。そのことが、進路未定の生徒の進路意識の向上につながった。生徒の実態をふまえて、外部機関と連携した取り組みを推進していきたい。	生徒の進路説明会の意識向上で、個々の実態に踏まえた指導も行っていく。進路選択に関する知識を向上させることはなかなか難しいのですが、個別対応だけでなく、学校からの働きかけとして体験的な活動を取り入れてみるのも面白い。外部との連携が必要。
		⑩進路関係をテーマにしたLHRを年に2回以上行う。	・進路説明会への積極的な参加を生徒に促すとともに、LHRにおける進路指導を充実させる。	B	B	B	⑩進路関係をテーマにしたLHRを2回実施し、校内の進路説明会や3パート合同の進路行事の有益な情報を発信した結果、昨年より参加者が増加した。LHRにおける系統的・組織的な指導の実施については次年度も検討していきたい。	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪卒業予定生のうち、自分自身の進路について方針が決定している生徒が60%以上である。 ⑫進路についての情報を生徒に与えるために、「清陵通信」を月に1回発行する。	・進路相談週間を設定することで、生徒が気軽に進路相談を受けることができるような環境づくりに努める。 ・「清陵通信」発行の際は、適切な進路情報を精選して提供する。	B	B	B	⑪進路相談週間を設定し、進路に関する相談が気軽にできる雰囲気づくりに努めた。卒業予定生のなかで新規就職・進学が決定した生徒は35%となっているが、毎年卒業予定生や在校生からの進路相談が増えており、進路意識が高まってきている様子がうかがえる。今後はさらに進路実現できる体制を整えていきたい。 ⑫アンケートでは、「清陵通信」をしっかり読んでいる、だいたい目を通して回答した生徒を合わせると80%であった。進路情報はよく生徒に伝わっているものと考えている。今後も生徒が必要としている情報の提供に努めたい。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑬70%以上の在校生が本校のWebページを見ている。	・学校の教育活動の様子や必要な情報等を本校通信制Webページに掲載し、その内容を随時更新することにより、在校生とその保護者をはじめとして、外部への情報発信を強化する。	A	A	A	⑬91%以上の生徒が見ている、または見たことがあると回答している。例年よりも、多く発信したが、来年度以降はさらに充実させ、本校通信制Webページを確認する習慣づけをしていきたい。	多くの情報を、91%以上の生徒が見ていたが、確認することを習慣にしていこう。Webページを活用していることは評価できるが、情報発信はもっと外部のメディアを活用してみるのがよい。新聞、ラジオ、TV、ネットで生徒の活動が紹介できるとよい。
		⑭入学希望者やその保護者に通信制課程に対する理解を深めてもらうために、本校主催の学校説明会を年2回以上実施するとともに、他の団体主催の合同説明会等に年2回以上参加する。	・入学希望者やその保護者に、自主・自律を軸とする通信制課程の特色が伝わるよう、提示する資料や説明の方法を工夫する。	A	A	A	⑭入学希望者向け学校説明会を4回開催した。そのうち2回は本校ではなく昌賢学園まえばしホール(小ホール)を会場として開催した。他団体主催の説明会にも2回参加することができた。	
		⑮保護者や入学希望者に対する授業公開を年に1回以上実施する。	・在校生の保護者および入学希望者とその保護者にスクーリングの様子を公開し、通信制課程の特色を伝える。	B	B	B	⑮今年度、在校生・保護者、入学希望者とその保護者や関係者向けの公開授業は2回実施した。昨年からはじめたレポートの展示を行うブースの設置を今年度も実施した。さらに学校概要を動画で放映したことで、来校者が興味をもって見ている様子があり、本校の教育活動の理解の一助となったと思われる。今後はさらに充実させていきたい。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯NHK高校講座やその他のデジタルコンテンツを学習に活用した生徒が30%以上いる。	・スクーリングにおけるICT利用だけでなく、生徒自身がデジタルコンテンツを活用するよう呼びかける。	A	A	A	⑯NHK高校講座やその他のデジタルコンテンツを学習に活用した生徒が66%以上いる。さらに充実させていきたい。	デジタルを活用して、学習に役立つ情報発信の工夫を。広域通信制高校と違って、デジタルコンテンツを十分に活用できない環境にあるため、限界があるのも当然である。ICTの活用はかかなりできたが、さらに工夫していく。生徒がアナログであったとしても、学校のシステムはデジタル化を推進させる必要がある。働き方改革のためにも、教材をデジタル化し、成績処理、生徒情報の管理にも改善をより進めてほしい。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ICTを活用した業務改善に、より一層取り組む。	・業務の効率化を図るために、ICTを活用できる場面を見極め、導入する。	B	B	B	⑰ICTを活用して業務改善に取り組んだ。会議資料等をデジタル化し、効率が上がった。来年度はさらにもう一歩踏み込んだ取り組みをしていきたい。	